

道徳科学習指導案

指導者	三浦 真 (T1) 向井 大 (T2)
教材名	電車の中で
主題名	本当の思いやり
内容項目	B- (6) 思いやり, 感謝
学年・組	3年1組 (男子18名 女子12名 計30名)
場 所	3年1組教室

主題観

「思いやりの心」は、自分が他者に能動的に接する時に必要な心のあり方である。他者の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。それはまた、黙って温かく見守るといった表には現れない場合もある。したがって、思いやりの心の根底には、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならない。このように考えれば、思いやりの心は単なる哀れみと混同されるべきものではない。

本教材「電車の中で」では、主人公タケシは、電車の中で、同じ塾の女子2人が男性に席を譲る場面を見かける。その1週間前、タケシは高齢者の席を譲る際の様々なトラブルを友達から聞き、しぶしぶ席を立っていると、高齢者の夫婦はそんなタケシの行為を勘違いし、タケシは予想外に感謝の言葉を受けることになった。2つの場面での女子2人の行為と心情、タケシの行為と心情とを比較させることで、「本当の思いやり」とは何かを考えさせるのに適した教材である。

生徒観

本学級の生徒は、事前アンケートの「道徳科の勉強は好きだ」という質問に対して、肯定的回答をした生徒が89%と高く、授業者から見ても、前向きに道徳科の授業に参加しているように感じられる。また、話し合い活動では、自分の意見をはっきり伝えながらも、仲間の意見をしっかりと聞いてメモをとるなど授業を協力的に進めることができる。

本授業の内容項目に関連する事前アンケートの「相手のことを思いやり、親切にしている」という質問に対して、肯定的回答をした生徒が93%である。実際に学校生活の様々な場面で、仲間を思いやる行動が見られ、あたたかい雰囲気を感じられることがある。このような実態は、生徒の思いやりの心の成長が進んでいるためと考えられるが、向東地区は1つの小学校、1つの中学校であり、狭い一定の人間関係の中で留まる可能性があり、広い日常生活の中で発揮されるかは不透明である。

事前アンケートの結果

質問内容	肯定的回答
道徳科の勉強は好きだ	89%
道徳科の勉強はためになると思う	96%
道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている	86%
道徳科の授業では友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしている	96%
道徳科の授業で勉強したことを、自分の生活にいかしている	82%
相手のことを思いやり、親切にしている	93%

指導観

2つの場面での女子2人の行為と心情、タケシの行為と心情とを比較させながら、「本当の思いやり」に必要なことは何かを考えさせたい。他者の立場を気遣い、行為と心情が一致した思いやりの心で接しようとする態度を育てるとともに、自分と他者との間に心の通い合いが生まれることに気づかせたい。また、一定の人間関係の中での思いやりに留まることなく、様々な場面で誰に対しても、行為と心情が一致した思いやりの心で接することができるように深めていきたい。

自分の意見をはっきり伝えながらも、仲間の意見をしっかりと受け入れ、協力的に授業を進めることができるので、話し合い活動を用いて深めていきたい。意見を共有して良いものを選ぶのではなく、対話しながら深めていくようにしていきたい。

本時の学習

(1) 本時の目標

心の通い合いの良さに気づき、他者の立場を尊重しながら思いやりの心をもって人に接しようとする態度を養う。

(2) 評価

お互いが他者の立場を尊重することで心の通い合いが生まれることに気づき、思いやりの心をもって人に接していきたいといった発言や記述が見られる。(授業での発言とノートへの記述で評価)

(3) 本時の学習展開

	学習活動	主な発問と活動 予想される生徒の反応	指導上の留意点 発問の意図 手立て
導入 5分	1. 教材や内容項目について関心をもつ。	○公共交通機関等で席を譲った経験があるかについて話をする。	・「思いやり」について考えることを伝え、視点を明確にする。
展開1 10分	2. 教材の状況について理解する。 ・範読を聞く。 ・状況を確認する。	タケシと高齢の夫婦の場面の状況確認 ○タケシは高齢の夫婦に感謝された時、何を思っただろうか。 ・前向きな譲り方ではなく気まずい。 ・感謝されるのは申し訳ない。 ・気持ちと行動がずれて後悔。 女子2人と男性の場面の状況確認 ○タケシは男性の笑顔と女子2人の満足したような顔を見ながら何を思っただろうか。 ・自然と譲っている。 ・すぐに降りると言って相手を気遣っている。 ・3人とも幸せな気持ちになっている。 ・心が通い合っている。	・気持ちと行動のずれから気まずさや後悔したことに気づかせる。 ・女子2人が相手の立場や気持ちに配慮していることに気づかせる。
展開2 15分	3. 2つの場面から思いやりについて考える。 ・個人で考えてノートに記入する。 ・考えたことを全体で交流する。	◎タケシは自分の経験と女子2人の場面からどのようなことを考えただろうか。 (個人→全体) ・心から相手を気遣うことができなかった。 ・気持ちと行動がずれてしまった。 ・自然で主体的に行動している。 ・心から相手を気遣っている。 ・相手に気を使わせないように相手の立場や気持ちを考えている。	・視点が「思いやり」からずれないようにさせる。 ・女子2人と男性の場面の良い点を重視して考えさせる。
展開3 15分	4. 道徳的価値を深める。 ・「本当の思いやり」について考えてノートに記入する。 ・班でまとめる。 ・全体で発表する。	○「本当の思いやり」とは何だろうか。 (個→班→全体) ・気持ちと行動が一致している。 ・自然でさりげなくする。 ・相手の立場を考え、気を使わせない。 ・心が通い合い、みんなが幸せになる。	・意見を共有して良いものを選ぶのではなく、対話しながら深めていくようにさせる。
終末 5分	5. 生活に結びつけ、自分のこととして考える。 ・個人で考えてノートに記入する。	○感じたことや考えたこと、今後どのようにいかしていくか。	・普段の他者への言動を振り返りながら記入させる。

(4) 板書計画

<p>自分に +1</p>	<p>生徒の意見</p>	<p>生徒の意見</p>	<p>考えて みよう</p>	<p>電車の中で ○タケシは高齢の夫婦に感謝されたとき、何を 思ったか ○タケシは男性の笑顔と女子二人の満足した ような顔を見ながら何を思ったか</p>
<p>感じたことや考えたこと、今後どうのよう にいかしていくか</p>	<p>生徒の意見</p>	<p>生徒の意見</p>	<p>タケシは自分の経験と女子2人の場面から どのようなことを考えたか 「本当の思いやり」とは何だろうか</p>	
	<p>生徒の意見</p>	<p>生徒の意見</p>		